

講義名	基礎技能B（自然科学・人文科学）			授業形態	
担当教員	富岡 敦基	開講期・曜日・時限	前期 水曜日 4 時限		
		単位数	2	履修開始年次	2 年生

主題と概要

【目的】
基礎技能Bは、公務員を目指す学生を対象とする「公務員試験プログラム」に位置づけられる公務員試験対策科目である。
2年生対象の基礎技能B（自然科学・人文科学）は、公務員試験における教養科目の一般知識分野である自然科学と人文科学を基礎から無駄なく実戦レベルまでレベルアップすることを目的とする。
授業内では初回とは較して最終回での理解度ならびに平均点を20%アップすることを目標とする。
なお、公務員試験合格には、当該授業を履修するだけではなく、自学自習が前提であることは言うまでもない。

【内容】
自然科学における物理、化学、生物、地学や人文科学における日本史、世界史、地理、文芸・思想に関する類出問題を解説をすることで、近年の公務員試験の傾向を把握する。
また、公務員試験受験に向けて、自習の方法や試験制度、職種なども学ぶ。
小テスト(5問)を第3回、6回、9回、12回、15回に実施する。

【意義】
講師との対話を通じて進められる本授業の意義は、受講生が、本学がディプロマポリシーで掲げる「論理的思考力」「情報収集力」「情報分析力」「課題発見力」「構想力」を着実に身につけることができることにある。
また、公務員という明確の目標に向って、コツコツと宿題をこなしていくことによって、「ネアカのびのび へこたれず」の精神を養うことができることも大きな意義がある。

到達目標

・公務員試験で出題される自然科学と人文科学の基礎知識を「正確」に理解できるようになる。
・毎週の宿題と講師のアドバイスを通じて、自学自習の習慣を身につけることができるようになる。
なお、以上の目標に到達するため、本授業は講師と受講生のコミュニケーションを重視する。そのため、教室における対面授業で実施する。

提出課題

・毎授業時に宿題（練習問題）を出す。
・公務員試験勉強には日ごろの自習が求められる。宿題を通じて、自分のペースに合わせた学習習慣を身につけてもらいたい。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

第3回、6回、9回、12回、15回に実施する小テストに関しては各個人の点数、クラスの平均点をFBシートで返却する。

評価の基準

小テスト（5回×5問＝25問）〔50％〕と受講態度（課題の提出〔15回〕等）〔50％〕の割合で評価する。

履修にあたっての注意・助言他

試験期間に試験は行わず、成績は授業期間内で全て評価される。毎回出席すること。
受講態度が悪い場合には、減点する。
また、最初の授業時に学ぶ科目の小テストを行い、その時点でどれくらい問題が解けるかや苦手範囲を確認し、15回の授業を通して解けるようにする。
さらに、志望する職種・自治体について事前に調べ、エントリーシートに必要な項目も早めの段階から書く準備をしておくこと。
【基礎技能Bへの編入について】
基礎技能Bに途中から参加するには、2年前期編入可能です。
1年後期（10～11月）にガイダンスを実施するので、編入希望者は必ず参加して下さい。

教科書

.2025年度版 地方公務員 寺本康之の超約ゼミ 大卒教養試験 過去問題集、	寺本康之・松尾敦基	実務教育出版	1760	9784788977945
--	-----------	--------	------	---------------

参考図書

.なし。				
------	--	--	--	--

その他

人文科学はテキストを使用せず、レジュメを配布します。

授業計画

- 物理1：公務員ガイダンス・力のつりあい・物体の運動
- 物理2：電気・原子物理その他
- 化学：主要項目ピックアップ
- 生物1：生態系の成り立ち・動物植物
- 生物2：遺伝・環境問題
- 地学1：地球の気候と環境
- 地学2：天気の变化・太陽系と宇宙
- 日本史：古代と中世について概論
- 日本史：近世と近代・現代について概論
- 世界史：西洋古代・中世・近代について概論
- 世界史：西洋現代・東洋史について概論
- 地理：地形・気候・農業・漁業・鉱業について概論
- 地理：各国地理・人口・民族・環境問題について概論
- 文学・思想：西洋思想・東洋思想、文学について概論
- 国語：主要項目ピックアップ

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

予習：それぞれの回の実施内容（全体把握）を予習すること（2時間程度）。
復習：講義内で実施した範囲の問題演習を繰り返し、3回以上は解くこと（2時間程度）。
公務員採用試験対策においては、問題演習を繰り返し解くことが重要である。
自学自習をすることで、授業で学んだ知識を定着させましょう。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

本授業の目標は、本学のディプロマポリシー（5項目）と以下の点で関連する。
・公務員試験で出題される自然科学と人文科学の基礎知識を「正確」に理解できるようになる。
・知識を応用して転換することができる、論理的思考力を持った人材の育成
・毎週の宿題と講師のアドバイスを通じて、自学自習の習慣を身につけることができるようになる。
・自主・自立の精神を持った人材の育成

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

理解度確認表・キャンパスクロスを活用し、不明点や確認事項を学生と講師間で共有する。

実務経験の有無及び活用

備考

自然科学（第1回目～第7回目）は富岡、人文科学（第8回目～第15回目）は中村が担当します。